

## 羽田発着枠配分基準検討小委員会（第1回）議事概要

1. 日 時：平成31年1月30日（水）17時～19時
2. 場 所：中央合同庁舎3号館 国土交通省11階特別会議室
3. 出席者（50音順、敬称略）
  - 〔委員長〕 竹内健蔵
  - 〔委員〕 安藤和代、大橋弘、加藤一誠、花岡伸也、矢ヶ崎紀子
  - 〔オブザーバー〕 ANA、JAL、SKY、ADO、SNJ、SFJ
  - 〔事務局〕 航空局長、次長、航空ネットワーク部長、航空事業課長 他
4. 議事
  - （1）羽田空港発着枠の検討課題と現状
  - （2）その他
5. 議事経過

事務局より資料に基づいて説明を行った後、委員の意見交換がなされた。

### 【主なご意見】

#### <議論の進め方>

- ・平成24年の小委員会で積み残した課題を整理することが必要。
- ・これまでの議論を踏まえて十分に整理されている事項と、見直しを考えていかなければならない事項を整理することが必要。
- ・今後5年間で我が国の航空を取り巻く状況について、予見できる変化を整理して議論することが必要。
- ・観光振興の面から国内ネットワークの充実がなされる方向での議論が重要。

#### <発着枠の回収について>

- ・回収ルールについては、事業者目線ではなく、国としてどうかという観点から検討することが必要。
- ・回収の規模、手法について、次回以降に考え方を整理してもらいたい。
- ・過去の議論を整理するとともに、航空会社に与える影響も考慮して検討することが必要。

#### <競争促進を通じた利用者利便の増進>

- ・羽田—新千歳路線については、成田—新千歳路線へのLCCの参入により、大手・特定既存航空会社の運賃に影響を与えていると思うので分析が必要。
- ・米国では、航空業界において、共通株主が多くなると、競争が減退するのではないかとの議論が話題になっている。
- ・複数の航空会社が就航している路線については、運賃が下がるなど利用者の利便性が向上しており、こうした路線の増加が望ましい。
- ・インバウンド需要の拡大に伴い、地方への送客と富裕層の取込みが重要となるが、運賃の低減だけに注目するのではなく、高付加価値のサービスの提供という視点も必要。
- ・羽田空港へのLCCの参入の是非について議論することが必要。

#### <政策枠について>

- ・際内乗り継ぎ改善枠は、関空の便数増加や羽田の国際化の進展等を踏まえると、その必要性について議論すべきである。
- ・地方路線が維持されている現状や、成田からの路線展開等を踏まえ、1便・3便ルールの必要性を確認すべきである。
- ・羽田発着枠政策コンテスト枠について、メリット、デメリット等の実績を整理することが必要。

#### <スロットオークションについて>

- ・スロットオークションを行うとすれば、LCCにもスロットオークションへの参加権を与えることが必要。
- ・低需要路線において、補助金による入札、いわゆる逆スロットオークションというのも中長期的に考えてはどうか。
- ・総合評価の一項目として価格を入れることは可能。他方、オークションによる収入と既存の着陸料収入との整合性が重要な論点。
- ・スロットオークションは、タイムスロットを対象にすべきであるが、実施に当たっての課題が多い。

#### <航空会社へのヒアリングに向けて>

- ・羽田の発着枠の増加と航空会社の収益との関連性について整理できないか。
- ・路線の増減便の理由や需給状況等について整理できないか。
- ・地方ネットワークについての航空会社の考え方について整理できないか。

以上